

SFRR Japan NEWSLETTER

Volume 1 No. 1, 2002



日本フリーラジカル学会

～新体制スタート～

理事長挨拶 ～新学会のスタートにあたって～
吉川敏一（京都府立医科大学第1内科 教授）

SFRR Japan および磁気共鳴医学会は、ここ5年、研究分野を共有するものとして年次総会を合同で行って参りましたが、この度、発展的に合併し、「日本フリーラジカル学会」（英文名称：SFRR Japan）という一つの学会とし、新たなスタートをきることとなりました。

それに伴い、組織としても双方のこれまでの役員を引き継ぎ、以下のような新体制を組み、私が、理事長としての任につかせていただくこととなりました。微力ながら、新学会の益々の発展のために、努力させていただきたいと思っております。また、現在、新しい学会規約や学会賞などの各種規程も整備いたしておりますので、今後両学会の会員の皆様方には、更なる発展のために、引き続きご協力宜しくお願い申し上げます。

【新役員】

理事長：吉川敏一
理事：浅田浩二・井上正康・内海英雄・大和田滋・小澤俊彦・
桑原幹典・中澤博江・二木鋭雄・吉川敏一
監事：内海耕慥・森昭胤（就任予定）
幹事：長野哲雄（会計）・内藤裕二（庶務）
評議員：計60名（暫定）

【新事務局】

京都府立医科大学第一内科学教室内
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465番
TEL: 075-251-5504 FAX: 075-252-3721
E-mail: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp
<http://www2.kpu-m.ac.jp/~firstmed/G.html>

年次学術集会や、関連雑誌購読情報、関連学会情報などを随時掲載しておりますので、ご参照下さい。
なお、次期・次々期学会は以下の予定です。

第25回日本フリーラジカル学会学術集会

会期：2003年6月28日～29日（予定）
会場：東京
会長：山本順寛（東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻）

第26回日本フリーラジカル学会学術集会

会期：2004年 未定
会場：未定
会長：吉村哲彦（（財）山形県企業振興公社・生物ラジカル研究所）

第24回日本フリーラジカル学会学術集会

日時：2002年5月18日（土）19日（日）
会場：大阪市立大学医学部学舎4階
大会長：大阪市立大学大学院医学研究科生化学・
分子病態学講座 井上正康

特別講演1：
「生体における低分子リガンドと蛋白・遺伝子群の共演」
半田 宏（東京工業大学フロンティア創造共同研究センター）
特別講演2：「生きることのトレード・オフ：病気の進化的理解」
長谷川真理子（早稲田大学政経学部）
特別講演3：「脳卒中研究の新展開」
松本昌泰（広島大学医学部神経内科）
教育講演：「Phagocytes: from oxygen generator to gene delivery vehicle」
中澤博江（東海大学医学部）
シンポジウム：抗酸化酵素と遺伝子発現、虚血・炎症・酸化ストレス、ガスバイオロジー、ESR とラジカル発生、酸化ストレスとアポトーシス、酸化ストレスと癌、抗酸化物の機能を探る、P450、バイオイメージング（計99演題）

平成14年5月18～19日に、大阪市立大学医学部において第24回日本フリーラジカル学会が開催されました。本学会はこれまでSFRR Japan と磁気共鳴医学会の合同学会として開催されてきましたが、今回より両学会を日本フリーラジカル学会として統合開催することになりました。大阪市立大学の井上正康が大会長を務め、活発な討論のもとに2日間の日程を無事終了することができました。本会では東京工業大学の半田 宏先生に「生体における低分子リガンドと蛋白・遺伝子群の共演」、早稲田大学の長谷川真理子先生に「生きることのトレード・オフ：病気の進化的理解」、広島大学の松本昌泰先生に「脳卒中研究の新展開」と題して特別講演をお願いしました。特別講演のうち2題はランチョンセミナー形式で行われ、講演内容の素晴らしさと昼食の場所探しや移動時間が節約できたことなどで大変好評でした。また、昨年度の本学会賞受賞者である東海大学の中澤博江先生に「Phagocytes: from oxygen generator to gene delivery vehicle」と題する教育講演をお願いしました。特別講演や教育講演以外はすべて口頭発表形式のシンポジウムとして企画し、99演題におよぶ最新の研究成果が発表されました。また、抗酸化酵素と遺伝子発現、虚血・炎症・酸化ストレス、ガスバイオロジー、ESR とラジカル発生、酸化ストレスとアポトーシス、酸化ストレスと癌、抗酸化物の機能を探る、P450、バイオイメージングと題するシンポジウムでは、いずれも大変活発な討論が行われました。大会2日目の午前に学術奨励賞候補の5演題が発表されましたが、いずれの研究も奨励賞に値する素晴らしい研究発表で白熱した討論が行われました。19日のプログラム終了後、学会賞、学術奨励賞の授賞式が行われ、大会長の挨拶で閉会しました。次回は、山本順寛先生（東京大学大学院工学研究科）が大会長を務め、東京で開催される予定です。
（大阪市立大学大学院医学研究科・分子病態学講座・佐藤英介記）

Natural Antioxidant and Free Radicals in Human Health & Radiation Biology(NFHR-2001)
 会 期：平成 13 年 7 月 21 日(土)～24 日(火)
 開催地：ボンベイ・インド

【国際インドフリーラジカル学会に参加して】

第 1 回国際インドフリーラジカル学会、Natural Antioxidant and Free Radicals in Human Health & Radiation Biology(NFHR-2001)が 2001 年の 7 月 21 日から 24 日に、ボンベイの Bhabha Atomic Research Center で行われました。この研究所ではインドで唯一原子力が作られている所だそうです。研究施設の周りは塙で覆われ、出入り口には厳しい守衛さんがおり、検閲をうけないと敷地内には入れません。この敷地内には研究所で約 5 万人の人々が働いており、彼らの居住施設があります。

この学会の President は Dr. R.D. Lele, Vice-President は Dr. (Mrs.)A.M. Samuel、Secretary に Dr. T.P.A. Devasagayam でした。Session は、Cardiovascular disease and cancer, Antioxidants/ cancer, Digestive disease and inflammation, Renal and neural diseases, Neural disorders and radiation therapy, Radiation biology, Markers of oxidative damage, Natural/herbal antioxidants, Plants and oxidative stress/ miscellaneous, Nitric oxide, Redox signalling/apoptosis, Antioxidants in reproductive health からなり、講演は 70 題、ポスター発表は 150 題でした。参加者は 325 人で、インド以外の参加者の国は、アメリカ合衆国、アルゼンチン、フランス、ドイツ、マレーシア、イギリス、日本の 7 カ国でした。日本人は私を入れて 5 名でした。最後の日の参加者は 150 名以上でしたので、第 1 回のこの学会は成功だったと言えるでしょう。

学会中のアトラクションとしてインドの舞踊がありました。舞踊会場は学会場から歩いて 5 分のところにあります。この踊りの最後に私は壇上に呼ばれ、各踊り子さんに学会からのお礼の品物を渡す人となりました。わたくしにとって印象深い発表内容には、インドで伝統的に使われている薬草、カレーに使われる黄色色素のターメリック、その成分のクルクミン、ショウガ、ニンニクの抗酸化作用についての発表でした。閉会では、150 題のポスター発表から優秀なポスター発表が 5 題選ばれ、わたくしはまた壇上に呼ばれてこの各五人に賞状を渡しました。

ボンベイの国際便は夜中の 12 時過ぎに発着します。午前中に学会が終わり、午後には Dr. T.P.A. Devasagayam の若い女性のお弟子さん達 3 人がボンベイの美術館を案内してくださいました。行きは 1 時間、帰りはラッシュに会い、1 時間 30 分でしたでしょうか。タクシーにはエアコンがなく、車量が多く、なかなかの排気でした。彼らは相手の車と上手に接しないすれすれの、とてもスキルフルな運転をします。何度命の縮まる思いをしたでしょうか。学会期間中には野生の親子ザルを楽しみました。お食事をする場所の窓には金網がはられ、そのすぐそばに親子ザルがいます。われわれが広い檻に入っているようでした。とにかく、何か幻想的で、神秘的な国です。毎日のカレー味の美味しいお料理とアラーブの瞑想的な音楽、不可思議な香料に魅せられて、精神的にも身体的にも元気になって帰ってきました。帰りの空港に行くタクシーの中では以前に山形県テクノポリス財団生物ラジカル研究所主催の国際会議に来られた NIH の人と一緒になり、彼の招待でテロの起こる 1 週間前に NIH を訪れたのでした。

(東北公益文科大学 平松 緑)

Redox Processes in Chemistry, Biology and Medicine SFRR(Australasia and Japan) 2001 Joint Scientific Meeting

会 期：平成 13 年 11 月 30 日(金)～12 月 4 日(火)
 開催地：Sydney, Australia

【学会に参加して】

SFRR Australasia と SFRR Japan の初めての Joint Scientific Meeting が、昨年 11 月 30 日から 12 月 4 日まで、シドニー郊外のシドニー大学において、Roland Stocker 教授が会長となられて開催された。日本からは、10 名の invited speaker を含めて、約 60 名のラジカル研究者が参加した(私も名誉なことに invited speaker として出席させていただいた)。

今回の学会は、「Redox Processes in Chemistry, Biology and Medicine」をメインテーマとして 14 のセッションに分かれ、57 題の口演と 83 題からなるポスターセッションが設けられた。学会初日の夕方に、Welcome Reception が催され、軽い夕食と思いきりのビールとワインを飲みながら、SFRR Australasia の研究者達と初対面の挨拶を交わしたり、秘書の Ms Kaylene Thomas に学会当日までに、E-mail を通じていろいろとお世話になったことに対してお礼を申し上げた。また、久しぶりに再会した日本の他施設の先生方とお互いの近況報告あるいは情報交換をしたのもこの時であった。2 日目からの 4 日間は、午前 9 時から午後 7 時まで、タイトなスケジュールで興味深い演題発表と、活発な Discussion が行われた。SFRR Australasia の研究者たちは、わたしが思っていた以上に活発で、私の演題発表後も、フロアで若い研究者の方が何人か質問に来られた。ポスターセッションにおいては、優秀演題が選考され、竹村先生、中川先生、市川先生、藤澤先生、高崎先生の 5 演題が Poster Presentation Award として最終日に SFRR Japan より表賞された。また、3 日目の夜には、Italian Village Restaurant で、Conference Dinner が催され、オーストラリア、ニュージーランド、日本、アメリカを始め、各国から、多数の研究者が参加した。Roland Stocker 会長の挨拶から始まり、各国の重鎮の先生方の挨拶に続き、プロの歌手たちの懐かしい歌につられて、各大学対抗の歌合戦へと、宴は展開していった。わが京都府立医科大学第一内科は、吉川教授の「わたしが歌うからバックコーラスをやれ」のひと声に、出席者全員(12 名)でバックコーラスをしたが、吉川教授が突然歌いだされた「王将」のバックコーラスは、すこぶる難しかった。我々のあとで、放射線医学総合研究所の先生方が歌われた「Sukiyaki ソング」を聞きながら、「次の機会に備えて、日本に帰ったら「王将」のバックコーラスを練習するぞ」と、その時は確かに思った。

国際学会に出席した場合のいくつかの楽しみの中に、「開催地に馴染む」ことも大きなウエイトを占めている。シドニーでの定番のシドニー湾クルーズに加えて、今回の収穫としては、オペラハウスを建築物としてだけでなく、劇場として、すなわちバレエ「コッペリア」を楽しめたことと、吉川教授をはじめ、京都府立医科大学第一内科のメンバー 9 名で、オージーのガイドに連れられて、4WD でブルーマウンテンズを巡る、アウトドア - 気分満点のツアーに出かけたことがある。最近では、同じ研究室員といってもそれぞれが忙しくて、時間を共有することが少なくなった我々にとっては久しぶりの楽しい 1 日であった。帰りの飛行機の中で、何年かに一度、シドニーに来るのも悪くはないなーと、個人的に思っていたところ、どうもこの Joint Scientific Meeting が、2 年毎に日本とオーストラリアで交互に開催されるらしいと聞き、非常に嬉しく思っている。まずは、第 2 回目の Joint Scientific Meeting が 2003 年 12 月に京都で開かれるらしい。再び彼等と歌合戦をするのが楽しみである。

(京都府立医科大学第一内科 古倉 聡)

XIth Biennial meeting of the Society for Free Radical Research International

会期：平成14年7月16日(火)~7月20日(土)

開催地：Paris, France

第11回国際フリーラジカル研究会議(XIth Biennial Meeting of the Society for Free Radical Research International)は2002年7月16-20日フランスの首都パリで開催されました。花の都パリでの開催とあって、世界中から743題の演題が集まり、日本からもSFRR Japanの会員を中心に100名近くの参加者があり大変な盛会でした。ただ2年前京都で開催された時と比べると口演数が160題と少なく、大半がポスター発表となったのはやや残念な印象でした。会場はサンジェルマンデブレにほど近いパリ第5大学(Rene Descartes University)で、古びた校舎にもそれなりの趣が感じられました。徒歩10分以内にルーブル美術館やオルセー美術館などがあり観光にも絶好の場所でしたが、疲れをとるためにという口実で学会を抜け出して美術館へ行くとなすすま歩き疲れて、学会場で休息をとる?という羽目になりました。体調が心配された会頭のCatherine Pasquire教授も何とか元気な姿をみせてくれて一安心でした。個人的には、今回は25に分かれたSessionのひとつに過ぎなかったRedox Regulationが、今回は大きく取り上げられ、全体の構成の約五分の一を占めていたことに感銘を受けました。19日夜のGala Dinnerでは深夜まで皆旧交・親交を深め、パリの夜を堪能しました。2年後の次回はアルゼンチンのブエノスアイレスで開催される予定で、また多くの新しい研究が発表されることを期待しています。

(京都大学ウイルス研究所生体応答学研究部門感染防御

中村 肇)

International Symposium Reactive Oxygen and Nitrogen species: Diagnostic, Preventive and therapeutic Values

会期：平成14年7月8日(月)~7月12日(金)

開催地：St. Petersburg, Russia

"Reactive Oxygen and Nitrogen Species: Diagnostic, Preventive and Therapeutic Values"の国際会議が2002年7月8-12日、サンクトペテルブルグ郊外の船上で開催された。このユニークな学会に参加する機会を得たので、印象を報告したい。サンクトペテルブルグ大学のY. Vladimirov博士と米国ピッツバーグ大のV. Kagan博士が共同議長を務めたが、ロシア人のKaganにとっては故郷に錦を飾ることが出来たとも言えよう。60の口頭発表、90のポスター発表があり、参加者は200名余に達していたと思われる。日本からは、浦野(芝浦工大)、福澤(徳島大)、佐藤(大阪市大)、宮澤(東北大)、安西(放医研)、湯川(和歌山大)、内藤(京都府立医大)、嵯峨井(青森県立大)、中西(昭和大)、坂本(北海道大)、佐藤(昭和大)らの先生方の参加があった。K. Davies, V. Kagan, N. Hunt, A. Reznick, B. Demple, P. Quinnが特に印象に残った演者であるが、それぞれアポトーシスにおけるヌクレアーゼやプロテアーゼの役割、ホスファチジルセリンの酸化とシグナル伝達、マリア脳症、タバコとNF-kB、酸化ストレス防御とヘムオキシゲナーゼ、生体膜中にも存在するであろうビタミンEと約10分子のレシチンからなる集合体について熱弁をふるった。いつもながらつまらない発表をする人ほど時間を守らない。ポスター発表にも見るべきものは多かった。ロシアは酸化反応の研究では先駆的な貢献を多くしているが、相変わらず理屈っぽいポスターが多くあった。ポスター賞の候補として芝浦工大の福井君を強く押したがあと一歩であったのは残念であった。Kagan研から二人、GC/MSを

利用した抗酸化物質のスクリーニング法を発表したニュージランドのS. T. Senthilmohanが選ばれた。船室が狭いなど必ずしも満足のいく環境ではなかったが、大河を往来した景色は抜群であった。ダム運河を利用して水位差を克服する方法も興味深かった。途中上陸したKizhiにある木造教会は世界遺産にも登録されているが、想像を超える美しさであった。土地の人々の歌や踊りも素朴ではあったが味わい深いものであった。白夜のもとで交わしたグラスと会話は国境を越えた友情とともに長く記憶にとどまると思われる。

(東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻 山本順寛)

SFRR 関連各賞受賞者

日本フリーラジカル学会 学会賞 決定!!!

井上正康 教授

(大阪市立大学大学院医学研究科生化学分子病態学)

本年5月、大阪にて開催されました合併後初めての学術集会となった第24回学術集会の際に、決定発表されました。新たに改訂された学会賞選考規程に則り、これまでの実績に合わせて今後の益々の活躍を期待されるという観点から選考委員会において厳正に討議・選出され、評議員会において、満場一致にて受賞が決定いたしました。

井上先生の今後の益々の活躍を祈念いたします。

Young Investigator Award

日本フリーラジカル学会では、各SFRR Societyの連携をとりつつ、若手研究者への奨励を積極的に行っております。その活動の一環として、関連学会における演題発表の中より、特に優秀と認められた若手研究者に対して、Young Investigator Awardを授与し、今後の益々の活躍を奨励しております。今年度の主な関連学会での受賞者は以下の通りです。先生方の益々のご活躍を期待しております。

【SFRR A+J Joint Meeting】

1. 竹村茂一(大阪市立大学大学院医学研究科・臓器器管病態外科学)
2. 中川秀彦(放射線医学総合研究所・生体制御研究グループ)
3. 市川 寛(京都府立医科大学・第一内科学)
4. 藤澤章雄(東京大学大学院工学系化学生命工学専攻)
5. 高崎みどり(京都薬科大学・天然薬物資源学)

【第24回日本フリーラジカル学会学術集会】

1. 鈴木秀和(慶應義塾大学内科学教室)
2. 浦野泰照(東京大学大学院薬学系研究科薬品代謝化学教室)

【SFRR Asia】

SFRRでは、隔年開催の国際学会にて、各Societyより、各賞の授与が行われました。2002年7月にパリで開催されましたXIth Biennial Meeting of the SFRRにおけるポスター発表の中より、以下の2名のアジアの優秀な若手研究者が、SFRR Asiaより受賞しました。

1. Bokghee Han, Ph.D. (National Genome Research Institute, Seoul, Korea)
2. 加柴美里(慶應義塾大学医学部医化学教室)

関連学会 開催案内

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにて随時情報を掲載予定です。

第14回腎とフリーラジカル研究会

会期：2002年9月21日(土)
会場：経団連会館(東京都千代田区大手町1-9-4)
世話人：副島昭典(杏林大学第一内科)
事務局：杏林大学第一内科内 TEL 0422-47-5511Ex.3631

日本過酸化脂質・フリーラジカル学会第26回大会

日時：2002年10月31日(金)~11月1日(土)
会場：徳島大学蔵本キャンパス長井記念ホール
会頭：福澤健治(徳島大学 薬学部)
プログラム(予定):
特別講演「スーパーオキシドと細胞情報伝達」
六反一仁(徳島大学 医学部)
特別講演「Oxidative Stress Profile による老化制御」
越智宏倫(日本老化制御研究所)
会頭講演「膜における脂質過酸化・抗酸化を考える」
福澤健治(徳島大学 薬学部)
演題募集中(締切 平成14年8月23日(金)必着)
連絡先：第26回大会運営委員会事務局
TEL: 088-633-9515 FAX: 088-633-9572
E-mail: kogure@hp.tokushima-u.ac.jp(事務局 小暮健太郎)

Second International Symposium on Antioxidants in Nutrition and Therapy: Mechanisms in Physiology-Pathology-Pharmacology
Date: October 2-4, 2002
Venue: Kuta Beach, BALI
<http://www.sfrr-ina.or.id>

Vinsalud 2002
Wine and Health International Congress
Date: October 20-23, 2002,
Venue: Santiago, Chile
Congress Secretariat:
Vinsalud 2002, CMC Ltda.
Toledo 1991, Providencia, Santiago, CHILE
Phone: 56-2-274 6714 Fax: 56-2-274 2789
E-mail: info@vinsalud2002.cl

9th Annual Meeting of The Oxygen Society
Date: November 20-24, 2002
Venue: Marriott Rivercenter San Antonio, Texas USA
THE OXYGEN SOCIETY
2950 Buskirk Av. Ste 170, Walnut Creek, CA 94596
TEL (925) 472-5904 FAX(925) 472-5901
info@oxygenociety.org

第3回日本 NO 学会学術集会

会期：2003年5月29日(木)-30日(金)
会場：前田浩先生(熊本大学医学部微生物学教室)
会場：ホテル日航熊本(熊本)
〒860-8536 熊本県熊本市上通町2-1
TEL: 096-211-1111; FAX: 096-211-1228
事務局(連絡先): 赤池孝章
熊本大学医学部微生物学教室
〒860-0811 熊本市本荘2-2-1
Tel: 096-373-5100; Fax: 096-362-8362
E-mail: takakaik@gpo.kumamoto-u.ac.jp

ビタミン E 研究会

会期：2003年1月24日-25日
会場：名古屋ガーデンパレス
世話人：太田好次(藤田保健衛生保健大学医学部化学教室)
山下かなへ(椋山女学園大学生生活科学部食品栄養学会)

消化器とフリーラジカル研究会

会期：2003年2月15日
会場：国立京都国際会館
世話人：吉川敏一(京都府立医科大学第一内科学教室)

第19回臨床フリーラジカル会議

会期：2003年2月22日
会場：京都
世話人：吉川敏一(京都府立医科大学第一内科学教室)

2003 First Regular Meeting of SFRR Asia
Date: 2003年 秋
Venue: 未定(Korea)
President: Chung, Myoung-Hee (Korea)

Food Factor: Physiologic Functions and Disease Risk Reduction
会期：2003年12月1日~4日
会場：日本都市センター会館(東京都千代田区)
会長：荒井綜一(東京農業大学応用生物科学部栄養科学科 教授)
連絡先：3rd ICoFF Registration Secretariat
TEL: 06-6348-1391 FAX: 06-6456-4105

2003 Second Joint Meeting of SFRR Japan-Australasia
Date: December 4-6 2003
Venue: Kyoto (Japan) 予定
President: Toshikazu Yoshikawa

Third International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide
(第3回国際NO学会)
会期：2004年5月24日-28日(予定)
会場：奈良100年会館(予定)
co-chair: 大阪大学医学部・谷口直之、神戸大学医学部・横山光宏、熊本大学・前田浩
第4回日本NO学会学術集会(会長：大阪大学医学部、谷口直之)との共同開催の予定。

12th Biennial Meeting of the International Society for Free Radical Research (SFRR2004)
Date: 2004 詳細未定
Venue: Buenos Aires, Argentina

日本フリーラジカル学会事務局より

SFRR Japan Newsletter に掲載を希望される方、あるいは、ご意見などありましたら、下記事務局宛ご連絡下さい。

SFRR Japan 事務局
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
京都府立医科大学 第一内科学教室内
TEL: 075-251-5504 FAX: 075-252-3721
E-mail: sfrrj@koto.kpu-m.ac.jp
HP: <http://www2.kpu-m.ac.jp/~firstmed/G2.html>